世界のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

Sexual and Reproductive Health / Rights



(株)国際開発センター経済社会開発部主任研究員

西田 良子

(公財)ジョイセフや順天堂大学においてJICA、国際機関等との

国際社会は、2015年に「持続可能な 開発のための2030アジェンダ (Sustainable Development Goals:SDGs) を共通の開発目標として 採択しています。その17のグローバル 目標の一つ、目標3は、「あらゆる年齢 のすべての人の健康的な生活の確保と福 祉の推進」をめざし、「誰一人取り残さ ない」を目標として、ユニバーサル・ヘ ルス・カバレッジ (Universal Health Coverage:UHC) の実現を目指していま

その一つの重要なターゲットして 「2030年までに、家族計画、情報・教 育及び性と生殖の健康(セクシュアル・ リプロダクティブヘルス) を国家戦略や 計画に組み入れていくとともに、性と生 殖に関する保健サービスをすべての人び とが利用できるようにすること」が掲げ られています (SDGs Target 3.7)。² UHC の実現、そして持続可能な開発の 達成には、「セクシュアル・リプロダク ティブヘルス/ライツ (Sexual Reproductive Health/Rights:SRH/R: 性と生殖に関する健康/権利)」を保障 することは一人ひとりの基本的人権であ り、不可欠であることが認識されてきた ことを示しています。

セクシュアル・リプロダクテ ィブヘルス / ライツの流れ

2019年11月、ケニアで「ICPD25 周年―ナイロビ・サミット」が世界 170カ国以上の国々から政府、国会議員、 国際機関、NGO・市民社会組織や企業 などの代表が参集し開催されました。3 1994年のICPD(国際人口開発会議)か ら25年。セクシュアル・リプロダクテ ィブヘルス・ライツは、この 1994年 ICPD を機会に、すべての人に共通に保 障されるべき権利として打ち出され、そ の後の国際的なイニシアティブや開発目 標において重要なテーマとなってきまし た。

地球規模の問題として、第2次世界 大戦後、急速な人口増加が進展し、特に その約95%は途上国で生じているとい うことを背景に、世界の人口問題がクロ ーズアップされました。これを受けて、 1974年から10年毎に開催されてきた 国際的な人口会議では、人口と開発問題 に対する政策の在り方や家族計画プログ ラムの推進についての議論が展開されて きましたが、1994年国際人口開発会議 において新たな方向性として提唱された のが、「セクシュアル・リプロダクティ ブヘルス / ライツ (性と生殖に関する健



写真 ガーナのアウトリーチクリニック

康/権利)」という考え方です。

180 カ国以上の国々によって合意さ れた「ICPD 行動計画」では、人口と開 発問題への取り組みに対して、単に人口 の数によってとらえるのではなく、人間 中心の開発をめざし、個人の意思とニー ズを尊重し、妊娠・出産を含む、性と生 殖に関するあらゆることにおいて、すべ ての人々が、自由に意思決定ができ、生 涯にわたって健康を享受できることを目 指すことを提唱しました。さらに、それ を可能にするためには、女性のエンパワ ーメント、男女の公正と平等の実現なし には人口問題の解決も持続的な開発も達 成されないと打ち出したことは画期的な ことでした。

「セクシュアル・リプロダクティブへ ルス/ライツ」は、その後、二つの重要 な世界的な開発枠組みにおいても、主要 課題として取り上げられてきました。一

- 1) 「すべての人びとが負担可能な費用で予防を含む適切な保健医療を受けられること」(WHO)
- 2) 外務省、https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html
- 3)「ICPD25周年ナイロビ・サミット」は、ケニア政府、デンマーク政府、国連人口基金(UNFPA)の共催。https://tokyo.unfpa.org/ja/icpd

つは、2000年に世界的な開発枠組みと して国連で合意された「ミレニアム開発 目 標 (Millennium Development Goals:MDGs)」。2005年には、国連に おいて、「すべての人びとがリプロダク ティブヘルス・サービスをだれでもどこ でも必要な時に利用できるようになる」 という目標が追加されるに至っています。 さらに、ミレニアム開発目標は、その後 続として、2015年国連総会で、前述の SDGs 目標3に引き継がれています。

セクシュアル・リプロダクテ ィブヘルス / ライツが目指す もの

「セクシュアル・リプロダクティブへ ルス」は、すべての人びと、老若男女と もに共通の問題であるとともに権利であ り、生涯を通してそのライフステージに 応じた様々な課題やサービスを対象とし ています。その中には、家族計画 (カウ ンセリング、避妊手段の提供)、不妊、 産前・出産・産後ケア・新生児のケア、 安全な妊娠中絶、思春期保健や若者へ性



写真 ガーナのクリニックでの女性たち

教育、セクシュアリティに係るカウンセ リング、更年期障害、HIV や他の性感 染や生殖器に関わる癌の予防やケア、ジ ェンダー(社会的な性差)に基づく暴力 や有害な行為の予防・支援、など幅広い 課題が含まれています。人々が安全で満 ち足りた性生活を営むことができること も含まれています。「安全で満ち足りた 性生活」とは、性感染症や HIV エイズ、 暴力や強要、意図しない妊娠から自由で

あるセックスを示しており、そのための 情報や手段を入手できること、また、安 全な妊娠・出産や子どもの健全な発育を 可能とする適切なヘルス・ケア・サービ スを利用することができることを示して います。

一方、妊娠するという機能を有する女 性にとっては、避妊・妊娠・出産から派 生する問題は男性に比べて女性の健康に 重大な影響を及ぼし、産む・産まないの 選択やその決定に係る女性また女児のお かれた社会的・文化的・経済的状況によ り女性の生活や健康は重大な影響を受け る点に留意することが必要です。

現在、特に途上国には、セクシュアル リプロダクティブへルスの点で、まだ 多くの課題が残されています。その中で も主要なものを以下に紹介します。

女性の健康

MDGsの目標5「妊産婦の健康の改善 一妊産婦死亡率 (MMR) の4分の3削減」 では多くの開発途上国で目標達成に届か



写真 ガーナでの出産 - 母と子ども

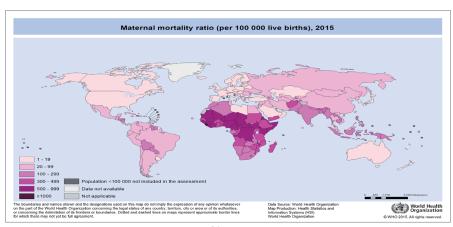
ず、SDGsに残された課題として引き継 がれています。

最新の報告では、世界で毎日約810 人の女性が妊娠・出産に関わる理由で命 を落としています。2017年には、世界 で、295,000人。その94%が中低所得 諸国で生じています。4 サハラ以南アフ リカと南アジア地域で全体の86%を占 めています【図1】。

途上国における妊産婦死亡の原因【表 1】をみると、最も大きな原因は、出産 中・出産後の出血多量と高血圧症で、こ れだけで全体の半分近くを占めています。 こうした妊産婦死亡の直接的な原因は、 多くの場合、「専門的助産技能者(医師 や助産師)」の立ち会いによる出産への アクセス、適切な産科救急への対応によ り可能だと指摘されています。しかしな がら、専門技能者の立ち会いによる出産 の割合は、世界では、78%、2000年 の61%より改善がみられますが、サハ ラ以南アフリカ地域では、2016年では 61%で、依然として大きな課題となっ ています。5

妊産婦の死亡の背景には、住民側の健 康や危険な兆候に関する知識や情報の不 足、病院や診療所が物理的に遠く、緊急 の場合でも交通手段もなく、交通手段や 医療サービスを得るお金もないこと、さ らに医療施設での適切な治療が可能な専 門的な医療スタッフやサービスの質、必 要な機材や医薬品が確保されていないと いう保健システムの課題が挙げられます。 同時に、女性の社会的地位の問題(ジェ ンダーの問題、教育など)、貧困など社 会経済的な環境の問題も重要であること を示しています。

家族計画サービスへのアクセス セクシュアル・リプロダクティブヘル



世界の妊産婦死亡(2015年) 出生10万対

妊産婦死亡の原因(2014年)

妊産婦死亡の 原因	
・ WHOによる111カ国、6万人以上の 妊娠婦死亡に関するWHOの研究 ・ * 「その他の直接的原因」は、分娩 停止のほか、解除・帝王切開の際の合 付班、子宮外妊娠之と。「間接疑問	

of sy:	materna stematic	I deaths:	, <i>Global causes</i> <i>a WHO</i> , Vol. 2, June
20:	14.		

原因	割合 (%)
出血多量(主に出産中・出産後)	27
妊娠高血圧症	14
感染症	11
分娩停止やその他の直接的原因	9
中絶による合併症	8
血栓(塞栓症)	3
間接的原因	28

スのサービスを誰でもどこでも必要な時 に利用できる社会の実現、という目標に ついても、まだ十分に達成に至ってはい ません。妊産婦死亡の削減には、家族計 画も重要な要因となっています。しかし、 現在、世界では、2億1400万人の女性 が妊娠を避けたいと願っているにも関わ らず効果的な避妊手段にアクセスするこ とができないでいます。6この結果が妊 産婦死亡の原因である中絶につながって います。こうした家族計画のアンメット ニーズ (充足されていないニーズ) は依 然として高いレベルです。 グットマッハ 一研究所の研究では、近代的な避妊具・ 薬の提供や妊産婦・新生児に対する必須 ケアに年間 1人8.56 ドルの投資により

意図しない妊娠や中絶を防止し、妊産婦 死亡を4分の1に、新生児死亡を5分 の1まで削減することができると提唱 しています。

若者のセクシュアル・リプロダクティブ ヘルス

SDGs 目標3のセクシュアル・リプロ ダクティブ・サービスへすべての人によ るアクセスを図るための指標として、 10代 (15-19歳) の出産率が取り上げ られています【図2】。多くの途上国(特 に後発開発途上国)では20歳以下の若 者人口が半数を占めており、思春期の若 者 (特に 15 ~ 19 歳) による意図しな い妊娠・若年出産も依然として高いレベ

- 4) 出所: WHO, Fact Sheet, https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/maternal-mortality
- 5) 出所: United Nations, "Progress towards the Sustainable Development Goals," https://sustainabledevelopment.un.org/sdg3
- 6) Guttmacher Institute, Adding It UP: Investing in Contraception and Maternal Newborn Health, 2017.

ルとなっています。毎年、途上国では、 15-19歳の少女の約1200万人が出産し、 15歳以下の少女の少なくとも77万7 千人が出産をしているとの報告がでてい ます。また、意図しない妊娠は、年間 560万件の中絶につながり、そのうち 390万件は危険な中絶となっています。7 こうした背景には、10代の若者、特に 少女たちの性と生殖に関する知識不足に 加えて経済的な理由、偏見、ジェンダー に基づく暴力などにより避妊を含むセク シュアル・リプロダクティブヘルスの情 報やサービスにアクセスすることができ ないことも要因となっています。10代 の妊娠・出産は、少女たちの健康、教育 そして人生に大きな影響を与えることに なります。これは、SDGsの目標5「ジ ェンダー平等の達成とすべての女性及び 女児の能力強化」という課題ともつなが っています。

国際社会の取り組み

多くの国際機関やNGO・市民社会組織、 研究機関などがセクシュアル・リプロダ クティブヘルスの推進に取り組んでいま すが、特に、WHO、UNFPA、IPPFを 紹介します。

WHO は、セクシュアル・リプロダク ティブヘルスに様々な研究を推進し、 SRH や UHC 実現に向けて保健システム 強化や国レベルの戦略策定へのエビデン スに基づく基準ガイドライン・ツールづ くりや技術支援を行っています。

UNFPA は、2030 年までの 10 年間 に妊産婦死亡・疾病をゼロに、家族計画 サービスの満たされていないニーズをゼ ロに、ジェンダーに基づく暴力や児童婚 などの有害な慣習をゼロにしていくこと を目標として掲げています。

IPPF (国際家族計画連盟)は、性と生 殖の健康と権利の分野では世界最大のネ

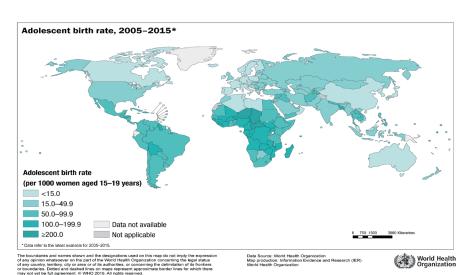


図2 15-19歳の女子1000人当たりの出生数(2005-2015年)

ットワークを持つ国際 NGO です。149 カ国の加盟協会があり、170カ国で女 性の健康とエンパワーメントを目指した 活動を展開しており、特に最貧層や最も 脆弱な人々を優先対象として、家族計画、 産科・婦人科ケア、HIV/AIDS や性感染 症、若者に対する性教育、カウンセリン グ、ジェンダーに基づく暴力などに係る サービスを提供しています。

おわりに

2020年、新型コロナウィルス (COVID-19) の感染拡大が地球規模の 課題となっています。 WHO が世界的な パンデミックとして指定し、6月初旬の 段階で、世界 190 カ国以上の国や地域で、 660万を超える感染者と39万人以上の 死者を出しています。8 この COVID-19 の影響は、特に保健システムの脆弱であ る途上国では、女性や子どもをふくむ社 会的に脆弱な立場にいる人々のセクシュ アル・リプロダクティブヘルスのサービ スへのアクセスにも大きな影響を及ぼす ことが危惧されています。女性や少女に は、意図しない妊娠やジェンダーに基づ く暴力の増加のリスクも高まっています。 国際的なパートナーシップによる協力や 支援が求められています。

セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関わる課題

- ・家族計画(カウンセリング、避妊手段の提供)
- ・不妊、産前・出産・産後ケア・新生児のケア
- ・安全な妊娠中絶
- ・思春期保健や若者へ性教育、セクシュアリティに係るカウンセリング
- 更年期障害
- ・HIVや他の性感染症
- ・生殖器に関わる癌の予防やケア
- ・ジェンダーに基づく暴力や有害な行為の予防・支援
- 7) 出所:WHO, Fact Sheet, https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/adolescent-pregnancy
- 8) 出所:WHO COVID-19 Dashboard, covid19.who.int